

フォーンズビジュアル検査でわかること

将来の疾病予測

20年/
5年以内※の
認知症

5年以内の
肺がん

4年以内の
心筋梗塞・
脳卒中

4年以内の
慢性腎不全

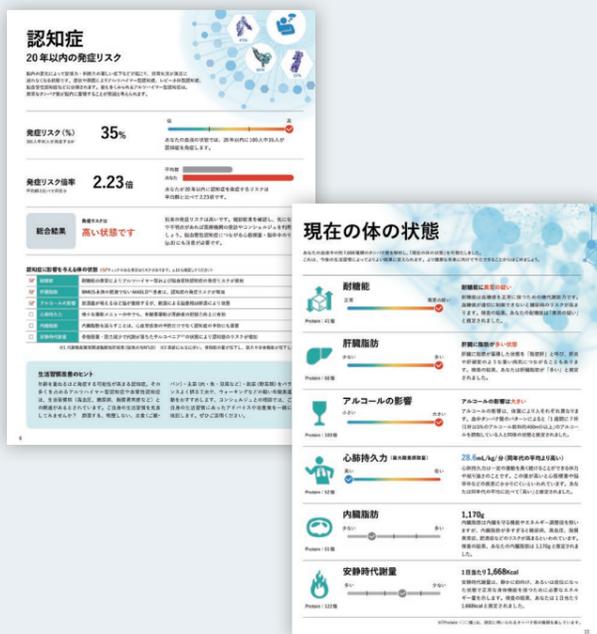
+

現在の体の状態

- 耐糖能
- 肝臓脂肪
- アルコールの影響
- 心肺持久力 (最大酸素摂取量)
- 内臓脂肪
- 安静時の代謝量

※5年以内の認知症発症リスクは65歳以上の方のみ提示

「将来病気になる確率」を
報告書でわかりやすく可視化



健康に寄り添い、
生活習慣改善をお手伝い



受診者向け
コンシェルジュサービス

あなたの健康状態やライフスタイルに合わせて、
保健師の資格を持つコンシェルジュがオンラインで、
生活習慣の改善方法をご提案します。

健康状態に合わせた
カウンセリング

検査項目の意味や数値のとらえ方、生活習慣の
改善についてご相談いただけます。疾病予測の
結果に基づいた生活習慣の見直しや、行動変容
につながる具体的なご提案をいたします。

Fones Visuas

血中タンパク質の検査で、
疾病の発症リスクを予測する

フォーンズビジュアル検査

Case Report 01

医療法人社団清済会
渋谷済生クリニック

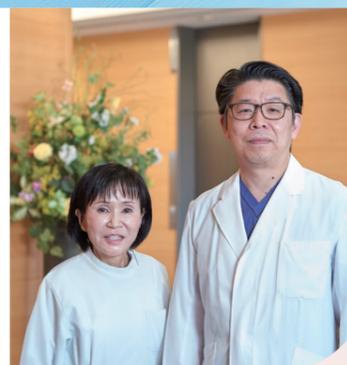
フォーンズビジュアルは、受診のきっかけ作りや
生活習慣見直しのモチベーション向上に有効。



Case Report 02

医療法人社団 誠馨会
新東京病院

人間ドック前の細やかなカウンセリングで、
フォーンズビジュアル検査をご提案。



Case Report 03

医療法人尚仁会
名古屋ステーションクリニック

フォーンズビジュアルは健診の意義を高め、
未病予防の有用な方策になる。



- ・検査結果は、医療機関の医師の診察として個人に提供されます。
- ・本検査のうち、「将来の疾患予測」の「20年以内の認知症発症リスク」は49歳以上、かつ認知症を発症していない方、「5年以内の認知症発症リスク」は65歳以上、かつ認知症を発症していない方、「4年以内の心筋梗塞・脳卒中発症リスク」は40歳以上の方、「5年以内の肺がん発症リスク」は喫煙歴のある50歳以上、かつがんを発症していない方、「4年以内の慢性腎不全発症リスク」は23歳以上の方、「現在の体の状態」は18歳以上の方のデータとして行われた分析結果に基づき判定します。
- ・全身性エリテマトーデス (SLE) の方は、検査結果を算出できない場合があります。
- ・慢性腎臓病の方および75歳以上の方は、4年以内の心筋梗塞・脳卒中発症リスク以外の項目の検査結果について正確に算出できない場合があります。
- ・18歳未満の方および妊娠中の方はご利用いただくことができません。
- ・医師の判断によることなく、本検査の結果を、疾病の診断・治療・予防等に用いることはできません。
- ・疾患予測は、将来の発症リスクを評価するものであり、現在の疾病の罹患状況を判定するものではありません。
- ・本検査は、その結果の正確性や、他の検査方法と同等の結果の提供を保証するものではありません。
- ・この検査に健康保険は適用されません。検査費用については医療機関におたずねください。
- ・コンシェルジュによる健康相談やアプリは、生活習慣の改善を支援するものであり、検査結果の改善や、疾病の診断、治療、予防等を目的とした製品、サービスではありません。

FonesLife

誰も病気にならない世界を。

フォーンズライフ株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-8-3

【お問合せ】contact-foneslife@mlsig.jp.nec.com

【URL】https://foneslife.com/



2025年6月

フォーネスビジュアルは、受診のきっかけ作りや生活習慣見直しのモチベーション向上に有効。

2023年2月よりフォーネスビジュアル検査を導入されている渋谷済生クリニック。検査をどのように生活習慣病の改善につなげられているのか、検査活用の具体例を伺いました。



医療法人社団清済会 渋谷済生クリニック
院長 加藤 清恵 先生

患者様が早期にリスクを知り、対処できることを知っていただければ良いと考え導入しました」と加藤先生。

FV検査の発症リスクには、いくつかの対象疾患がありますが、同クリニックで検査を受ける方で最も関心が高いのは、将来の認知症発症リスクの予測とのこと。この先、認知症にならないように気をつけたい、リスクを踏まえて生活習慣を変えたいという方が多く、時にはご家族からの要望で検査を受ける方もいらっしゃるそうです。

ご本人の治療への向き合い方が重要な生活習慣病。FV検査で、生活習慣改善のモチベーションアップを。

糖尿病をはじめとする生活習慣病は、生涯を通じて長く付き合いながら治療に向き合うことが必要となる疾病です。加藤先生は「ご本人がモチベーションを維持して治療に積極的になり、自身の生活を変えたいと思わない限り、改善は期待できません。私たちがいくら言ってお薬を飲んでもらったとしても、うまく行かないケースも多いのです」とおっしゃいます。

その点、健康状態が気になり自らFV検査を申し込んだ方にとって、検査の結果報告書はリスクが数値化されているためインパクトが大きく、積極的な取り組みのきっかけになります。将来の疾病リスクが可視化されることで、継続した受診・治療へとつながり、生活習慣改善へのモチベーションが向上す



ることが大きなメリットだと言えます。

同クリニックでは、公式サイト内でFV検査を紹介したり、院内にポスターを掲示したりとFV検査を告知しています。患者様自身が希望して検査を受けられることで、効果的な治療へと結びついています。

FV検査が再来院につながり、糖尿病の発見と治療に結びついたケースも。

実際に、FV検査がきっかけとなり、糖尿病の治療につながった事例もあるとのこと。FV検査を受けたいと初めて同クリニックに来院された方で、検査結果のなかに気になる項目があったということで、後日改めて来院されました。同クリニックで検査をしたところ、糖尿病であることが発覚したそうです。

「ご本人はご自身が糖尿病だと全く気づかず、体重もあまり気にされていない様子でした。ですがFV検査の結果を受けて『痩せなきゃいけない』と決意されたようです。ご本人が生活習慣に気をつけられない限り、薬を飲んでもらったとしてもなかなか効果は出ないものなのですが、その方はそれまでの生活を見直して、頑張って体重も落とされました。FV検査により、生活習慣を見直す動機付けがなされたのではないのでしょうか」と加藤先生はおっしゃいます。

また、認知症発症のリスク予測については、将来的に高リスクであるという結果が出たとしても、検査を受けた時点では症状が出ていないケースがほとんどです。そのため、日頃から運動したり外出したり、人と話すことを促すなど、指導することで、発症リスクの低減につなげることができるのです。

受診者、医療機関の皆様のご意見を受けて、よりパーソナライズ化された検査結果報告書に。

同クリニックでは、検査結果はご自宅等に郵送して受診者ご本人にご確認いただくかたちをとっています。そのため、その有用性をより引き出すためにも、「患者様の個別の状態がもっと分かりやすかったり、結果に対してどんな対策をすべきかなど、検査結果報告書自体がより理解しやすくなるといいですね」とかねてより、ご意見をいただいていた。渋谷済生クリニック様をはじめ、多くのご意見を反映し、2025年5月から個別のアドバイスが充実した内容へとリニューアルしています。

最後に、加藤先生は「企業や自治体の健康診断を受けても、その先の受診・治療へと進んでいない方は多いですよね。FV検査を通じて、そのような方々をうまく医療機関への受診につなげていけるよう、私たちがうまく後押ししていければと思います」と今後の展望を語られました。



パーソナライズ化された情報を掲載した検査結果報告書

将来の認知症発症リスクを予測できる点に着目しフォーネスビジュアル検査を採用。

東京都心の渋谷駅から徒歩で約10分という立地で、糖尿病を中心に、さまざまな生活習慣病の患者様を診られている渋谷済生クリニック。予防から治療まで、一人ひとりの患者様の生活に寄り添いながら診療を行っています。

総合内科専門医・糖尿病学会専門医である院長の加藤清恵先生がフォーネスビジュアル検査（以下、FV検査）を採用された背景には、生活習慣病の患者様の認知症リスクの高さが挙げられます。「将来の認知症発症リスクを予測できる検査は、あまり見かけたことがありませんでした。FV検査によって、

Clinic Data

医療法人社団清済会
渋谷済生クリニック

いろいろな生活習慣病の予防から治療まで、健康づくりをサポートします。

内科全般のご病気を、かかりつけ医として、親身になって診察します。



- 所在地/東京都渋谷区東2-23-3 タゴシンビル1階
- 診療科目/内科、糖尿病内科

生活習慣病が気になる方に向けた

Fones Visuas 活用POINT

POINT 01

Webサイトとポスターで患者様にFV検査を広く告知

POINT 02

リスクの見える化で生活習慣改善のきっかけに

POINT 03

早期の介入により未病段階でのサポートを可能に

人間ドック前の細やかなカウンセリングで、 フォーネスビジュアル検査をご提案。

日本全国から経営者層を中心に
口コミで受診者が訪れている新東京病院の人間ドック。
事前のカウンセリング時にフォーネスビジュアル検査を
どのようにご提案し、実施へとつなげているのか伺いました。



医療法人社団 誠馨会 新東京病院
副院長/ドック室室長 **石井 則宏** 先生

きません。FV検査は将来の発症リスクを予測する検査なので、病気になる前のできるだけ早い段階で予防対策が取れる可能性があるため採用しています」と副院長であり、人間ドック室室長の石井則宏先生。同病院の人間ドックの受診者は経営者層が主で、自分のためだけでなく、家族や社員のためにも、健康状態に早めに手を打ちたい方が多いそうです。

同病院では人間ドック後のアフターフォローにも力を入れています。検査結果画像の説明は同病院の専門医がドック室まで来て行うほか、治療が必要な場合はその場で受診予約を入れられるなど、院内での連携がスムーズに行われています。こうした体制について、看護師の野崎洋子さんは「しつこく追いかけるぐらいにアフターフォローをしっかり行っています。もし入院されるようなことがあったら病室にお顔を見に行ったりしますね」とおっしゃいます。

一人ひとりに合わせた柔軟な対応により、受診者の信頼を獲得。FV検査の実施につながる結果に。

前述のような個別のきめ細やかな対応やアフターフォローへの評判によって、同病院の人間ドックは全国の経営者の方々に口コミで広がっています。「遠くは北海道、沖縄からも口コミで紹介されて来られます」と野崎さん。遠くから来られた方の場合は、人間ドックの検査結果の画像などを持ち帰っていただき、地元のかかりつけ医とスムーズに連携できるような配慮も欠かしません。

こうした配慮ができるのも、同病院の人間ドックが杓子定規ではなく、個別対応に力を入れているためです。「最近では病院でもマニュアル通りにしか動けなくなっている傾向がありますよね。でも、ここではスタッフが色々柔軟に頑張ってくれています」と石井先生。こうした姿勢が評判となって、口コミを呼ぶ信頼につながっているのでしょう。

「経営者やリーダー層の特徴に、専門外の分野は詳しい人にある程度任せる傾向があると思います。実施した方が良い検査などがあればアドバイスして欲しいと。それに対して、こちらが提案をすると信頼して検査も受けていただけるようです」と分析されています。

家族の既往歴なども鑑みてFV検査をおすすめ。受診当日でもオプションとして追加できる体制。

では、具体的にどのような流れでFV検査が実施されているのでしょうか。まず、公式サイトの人間ドックのページに、基本的な検査項目に加えてFV検査をオプションとして掲載。加えて、人間ドックを予約した方に問診票などの書類を事前に送付する際、FV検査のパンフレットも同封しているそうです。

その上で、人間ドック当日にも担当の看護師がカウンセリングを行う時間を設けています。ご本人のカルテを見たり、ご家族の既往歴を聞いたりしながら、さまざまなオプション項目の一つと



写真左:事務担当 飯塚響さん 写真右:看護師 野崎洋子さん

してFV検査をすすめているそうです。

「当日ご相談に乗りながら、『こういう項目を実施したらいかがですか』など、やりとりをしながらオプション検査を決めます。当日に急遽、追加で実施することになってもスムーズに検査できる体制になっています」と野崎さんはおっしゃいます。

人間ドックで現在の病気を発見して、治療へ。FV検査で将来のリスクを予測して、予防対策へ。

人間ドックのオプションとして、数多くのFV検査を実施してきた同病院。現在の体の状態がわかる人間ドックと将来の発症リスクを予測するFV検査を併用するメリットを挙げられています。「人間ドックで数値が明らかな異常値になっていなかったり、画像で明確に異常がなかったりすると、安心してそこで終わってしまいます。でもFV検査で、『将来的にリスクが高い、でも今から対策できる』と言われると、頑張ろうと思えるのではないのでしょうか。そういったきっかけにはすごく良いと思います」と石井先生はおっしゃいます。

現在FV検査は、希望する方は自費で実施されています。FV検査の未来像について、石井先生はこのような展望を語ってくださいました。「例えば、レントゲンやMRIなどの検査を膨大な母集団で実施するより、FVのような血液検査でスクリーニングして、その結果を元に詳細な検査を実施する方が医療経済的にも良い、そんな研究がなされ、エビデンスが確立されれば、FV検査は爆発的に広がると思います。そうすると自治体の健診などにも採用されるのではないのでしょうか。楽しみにしています」

リスクを可視化し、早めに予防策を打てる点が人間ドックを利用する経営者層の方々のメリットに。

1泊2日で実施され、きめ細やかな対応が受診者に高い評価を受けている、新東京病院の人間ドック。最大の特徴は、人間ドックアドバイザー研修を受けた看護師が、電話予約時、ならびに受診日当日に個別にカウンセリングを行っていること。ご本人の生活習慣や家族の既往歴も含めてお話を聞き、その人ごとに必要だと思われる検査をオプションとしておすすめしているそうです。フォーネスビジュアル検査（以下、FV検査）も、そうしたオプションの一環として実施されています。

「人間ドックとはいえ、病気は発症してからでない」と発見で

Hospital Data

医療法人社団 誠馨会
新東京病院



患者さんを第一に。患者さんが中心に。患者さんとそのご家族を第一に考える思いやりのある医療を提供します。

- 所在地/千葉県松戸市和名ヶ谷1271
- 病床数/430床
- 診療科目/内科、糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科、心臓内科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、脳神経内科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、眼科、他3科目

人間ドックの受診者に向けた

Fones Visuas 活用POINT

POINT 01

人間ドックの
オプションメニューとして
FV検査を実施

POINT 02

ご本人や家族の既往歴に
沿ってご相談しながら
看護師がFV検査をご提案

POINT 03

今の状態は人間ドックで
確認、将来のリスクは
FV検査で予測

医療法人尚仁会
名古屋ステーションクリニック

フォーネスビジュアルは健診の意義を高め、 未病予防の有用な方策になる。

2021年5月よりフォーネスビジュアル検査を導入した名古屋ステーションクリニック。採用のきっかけや、健診特化型クリニックがFV検査を行うことの意義などについてお話を伺いました。



医療法人尚仁会 名古屋ステーションクリニック
理事長 **木下 水信** 先生

築しました。「溜められた末に破棄されることの多い健診結果をデータ化して蓄積すれば、それまで見えなかったものが見えるのではないかと考えました」と、木下先生は当時を振り返ります。

また、「当クリニックの利用者の9割が、企業の健康診断が目的。結果をデータ化・蓄積することで、企業が従業員の健康課題を見出すことに寄与したい思いもありました」とも語ります。

血中タンパクの解析から、疾病の兆しを見つける。 フォーネスビジュアル検査に可能性を感じ、採用。

同クリニックでは、検査後の保健指導についても、コロナ禍を機にオンライン化。受診者のデータを取得・解析し、それを元に予測的観点に立った指導を実施したところ、以前は40%だった実施率が80%程度までアップしたといいます。特定保健指導の実施率が高い企業は、健康経営銘柄として選定されます。企業価値を大きく上げることに貢献でき、木下先生も達成感を感じたとおっしゃいます。

しかし、健診におけるDX化に手応えを感じる一方で、健診にかかる時間や費用、労力などの負担と、そこから得られる精度が必ずしも正比例しないことに課題感を抱いてもいたそう。

そんな時に興味を持ったのが、フォーネスビジュアル検査（以下、FV検査）だったと、木下先生。「必要なのは採血管1本の血液のみ。そこから約7,000種類のタンパク質を解析して疾病の可能性を早期発見するというのは、非常に画期的でありながら信憑性があると思いました。少量の血液で、自分の健康の羅針盤のようなものが確認でき、それを使って良い方向へ進んでいくことができる。そんな未来が想像でき、大きな可能性を感じました」。木下先生はFV検査導入のきっかけを語ってくださいました。

将来の健康予測まで視覚的に伝えられ 受診者の行動変容のきっかけに。

採血だけで検査が終わるという手軽さに加え、検査結果報告書のわかりやすさも評価したいと木下先生。「現状と将来予測の両方がグラフィカルに書かれていて、我々もとても説明しやすい。親切丁寧だと感じます」と、評価ポイントを挙げてくださいました。

同クリニックでは検査後、希望者には30分程度の医師によるコンサルティングを実施しています。「今の健康状態はどのようなポジションにあり、将来はどんな疾病の可能性が考えられるのか。不安を煽ることなく、前向きな形で話することを大切にしています」。検査の必要性や健康管理の重要性を客観的・論理的に伝える上でも、検査結果報告書や、その見方を記した検査ガイドが有用だそう。「FV検査を受けるのは、基本的には健康意識が高い方。そのような方々に、今までは“点”でしか分かり得なかったことを線にして、将来的なことまで伝えることができるのは、非常に意義があるのではないのでしょうか」。

FV検査が、クリニックのブランド価値向上や 受診者の行動変容に寄与する可能性も。

木下先生は、FV検査導入がもたらす、クリニック経営におけるメリットについても、独自の視点で示してくださいました。「健康診断や人間ドックは、企業経由で受診される方がほとんどですが、FV検査は新規で申し込む個人の方が少なくありません。FV検査は、そうしたアーリーアダプター（新しい技術や製品

を早期に受け入れる人）が我々を認知する契機になります。さらには、彼らがFV検査に価値を見出して評価を広めることで、近い将来、広く普及することが期待できるでしょう」。

また、FV検査は受診者の行動変容につなげる足掛かりになる、とも木下先生はおっしゃいます。そのためには、検査後のコンサルティングをオンラインで実施する、追加検査費用を一部負担するなど、サービス拡大の必要性があることについても、言及してくださいました。「FV検査は、日本におけるリキッドバイオプシー（血液等の検体を解析して、異常の有無などを調べる検査技術）のトップバッター的な存在。FV検査で得たデータを解析し、さらには食事や運動や心の安定など受診者の背景も加味して、個々に最適化した提案をする。そんな、究極的で理想的な健康管理の形がやがて、人々の生活の中に浸透していくのではないのでしょうか」と、思い描くヘルスケアの未来像についても語ってくださいました。



健診結果をデータ化・蓄積、 そして、解析することの有用性に早くから着目。

名古屋ステーションクリニックは、名古屋駅前の好立地に位置する健康診断・人間ドック専門クリニックです。ホスピタリティ、アメニティ、ユーザビリティを完備した施設内で、様々な健診コースを提供しています。短時間・高精度な検査のために最新機器を導入することはもちろん、先進的なシステム構築にも、早期から積極的に取り組んできました。

自身も消化器外科医である理事長の木下水信先生は、「リアルとネットを融合させた新しい健康管理」に関心を抱き、健診結果をオンラインで閲覧できるシステムを18年ほど前に独自で構

Clinic Data

医療法人尚仁会
名古屋ステーションクリニック

おもてなしの精神を大切に、受診する方がくつろげる空間を届けています。

継続的に健康管理を行うことができるようサポートしています。



- 所在地/愛知県名古屋市中村区名駅 4-6-17 名古屋ビルディング8、9階
- 診療科目/人間ドック、脳ドック、肺ドック、他各種検診、各種健康診断、外来診療など

健診の受診者に向けた

Fones Visuas 活用POINT

POINT 01

少量の採血で、
未病予防の有用な方策
になり得る

POINT 02

現状と将来予測を、
受診者へ視覚的に
伝えられる

POINT 03

パーソナライズされた検査結果が、
医療従事者にとっても
健康指導のヒントに